

認証・登録範囲設定の考え方(案)

分類	現状：全組織、全活動、全従業員	代案：現状に加え一定の条件を満たせばサイト認証可とする	(参考) 組織：ISO14001の場合
認証の範囲	<p>●全組織・全活動・全従業員を対象</p> <p>【原則】</p> <p>①本業に関わる活動は対象に含める</p> <p>②段階的に拡大していくことも可能。スケジュールを明確にし4年以内に全組織認証</p> <p>③環境負荷が小さい組織やサイトのみを対象とすること、環境負荷の大きな組織を対象範囲から外すことは不可</p> <p>【緩和条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体に占めるCO2排出量が10%以下事業、サイトは適用外とすることを認める。 ・大規模事業者の単独サイトは、単独サイトとしての認証を認める。 	<p>●全組織・全活動・全従業員を対象</p> <p>【原則】</p> <p>①、③は継続。②は削除</p> <p>●以下の条件を満たす場合、サイト単位の認証も可とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイト内では全組織・全活動・全従業員を対象であること ・サイトでは本業に関わる活動が行われていること ・認証のいいとこどり（チェリーピッキング・カフェテラス認証）でないこと 	<p>●組織単位での認証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001での認証単位。「責任、権限及び相互関係を伴う独自の機能をもつ」ことが前提 ・認証のいいとこどり（チェリーピッキング・カフェテラス認証：負荷の大きなプロセスの除外した認証、特別な理由もなく特定のプロセスのみを認証）は認めない。 ・環境側面は「影響を及ぼすことができる」範囲で抽出することが要求されており、認証範囲外であっても影響を及ぼすことが可能ならば実施が求められる。 ・認証範囲を明瞭に示すことが必要。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション21の目指す方向（組織を挙げての取組）を維持することができる。 ・エコアクション21の本来の意図（環境経営の実現）から外れた認証を除外することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条件付きでサイトでの認証可としたことから現状より認証範囲が柔軟になる。 ・認証取り消しの可能性のある事業者が継続となり、新規もサイトの条件を満たせば認証取得可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション21より認証の範囲に柔軟性がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・原則が厳しく、エコアクション21の認証を難しくしている。 ・認証組織とは別サイトの4年以内の認証の猶予が切れ、認証取り消し組織が相次ぐ予定 ・厳密に原則を適用する地域事務局と比較的緩い地域事務局があり、公平性に欠ける場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認証のいいとこどり（チェリーピッキング・カフェテラス認証）がどこまでを指すか不明である。 ・本業の範囲が不明である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来全社で実施した方が望ましい組織も、細かく分かれた認証となっている場合がある。